

114
A 4154
13

四月朔日

長寄石丸八郎ヨリ申来ル

七等山仕

大正十一年四月



阿部ノ直、岡田横山、悟リト父岡田曰、彼ノ人
 ナリ元肥後ノ相順ト申者ニ金七十兩借用シテ、返
 不出来ニ付、大ニ争セ、竟ニ天主堂ニ入ル、其後浦
 上ノ愚民ヲ誘惑シ、遂ニ如キノ勢ニナレリ、五嶋平戸
 三ノ本、大知、尚ト呼モ、即同人ノ一トシ、近來テハ
 兩約書ノ所要ノ抜萃シ、初学要理 管理 眞論 其他 教テ諸人ヲ誘
 了、其死業探索ノ為トハ、見ヘズ、併シ不図大良ヲ
 生セシヤモ、難測ケシ氏、タトシ、良心ヲ生シテ、邪徒ヲ改
 めセシムトモ、心ハ一口兩舌英雄ヲ欺キ、竟ニ



邦教ヲ蔓延セシムルノ策ナルハシシカシ如何追々
其證アラハルヘシノ横山曰同人ノ為人ヤ如中
介ルノ説得ニツカフ様ノ儀アラハ^{七集出仕}當地大迷惑
何事ヨキ禁鋼ノ策ナキヤ何シ今年事モ
廿六日内^{五島ヨリ}及縣ニナル故ニ第ト申^可評ソ可
遠事ナリト○同人何程良心ニ立返ルト申ストモ
多年天主堂ノ考ニ家族ヲ養育サレ^{過今}
年南金ノ以テ榮華ヲ極ムル者ナレハ今一旦

皇道ノ以テ改テ人民ヲ教ムノ儀ヲ彼津藩司
知ハラハ必同人ヲ責ムルニ信義ヲ以テスヘシ然レ
時ニ同人亦兩舎ノ巧ニ^遠政府ノ所難題ヲ
醸シ^遠交際上ノ異論トモナレシ誠ニ危キヲ
不可言ナリ

三月廿一日

石丸

